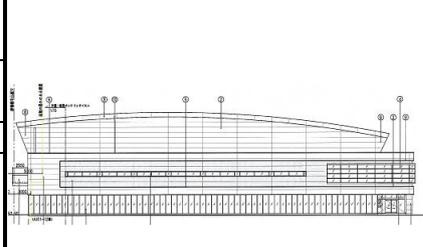


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	神奈川県立体育センター等特定事業(第2アリーナ・プール棟)	階数	地上2F、地下1F
建設地	藤沢市善行7丁目3347番1他	構造	S造
用途地域	第二種中高層住居専用地域、準住居地域、準防火地域	平均居住人員	1,230 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,684 時間/年(想定値)
建物用途	集会所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年6月 予定	評価の実施日	2018年3月5日
敷地面積	15,152 m ²	作成者	清水建設株式会社一級建築士事務所
建築面積	9,446 m ²	確認日	2018年3月5日
延床面積	14,076 m ²	確認者	清水建設株式会社一級建築士事務所



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 2.0 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外のオンサイト手法 ④上記+オフサイト手法

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.3

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.7

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.0

LR のスコア = 3.8

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 設計上の配慮事項

総合	その他	
隣接する周辺建物との離隔距離を確保するとともに、天井高の必要なアリーナフロアは中央に配置し圧迫感を低減し、発生する日影を極力抑える計画とした。既存のスポーツアリーナとの間に交流の拠点となる『アリーナ広場』を設けるとともに、各種競技・練習室を配置し、大きな開口部を設けることで、利用者・周辺住民の交流スペースを創出する。屋上には太陽光発電パネルを設置することで自然エネルギーの有効活用を図る計画とする。		
Q1 室内環境 F☆☆☆☆建材を全面的に採用し、全館禁煙とするなど、空気質環境にも十分配慮している。 Low-Eガラスの採用、断熱材の強化により外皮性能を上げているなど、温熱環境に配慮している。	Q2 サービス性能 補修必要間隔の長い仕上材、配管材を採用するなど、建物の耐用性・信頼性に配慮している。	Q3 室外環境(敷地内) 緑地を設けることにより、良好な景観を形成している。
LR1 エネルギー LED照明を採用するなど、設備システムの高効率化に配慮している。	LR2 資源・マテリアル Oフロアを採用するなど、部材の再利用可能性向上への取り組みをしている。	LR3 敷地外環境 広告物照明を行わないなど周辺環境へ配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される